



# 学校だより

令和5年1月10日

No. 10 1月号

横浜市立篠原西小学校

ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/shinoharanishi/>

## 学ぶ楽しさを子どもたちに

校長 金子 博美

新しい年を迎えました。皆様、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。感染症拡大に関しては、心配な日々が続いております。職員一同、子どもたちの安全を第一に、だれもが安心して過ごすことができるよう努力して参ります。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

一年の始まりとなる1月。旧暦では、和風月名(わふうげつめい)と呼ばれる月の呼び名があり、1月は、代表的な和風月名では「睦月(むつき)」と言います。「睦び月(むつびつき)」が略されたものというのが一般的な説であり、正月に親族が互いに往來したり一同に集まったりして、仲睦まじく宴をする月であるからと言われているそうです。今回調べた本によると、他にも、稲の実を初めて水に浸す月を指す「実月(むつき)」から転じたというなど所説あるようですが、もっぱらこの説が通っているとか。年の初めをみんな仲良く過ごしたいという気持ちは、誰もがもっていることだからでしょう。それ以外の1月の別名も調べてみるととてもたくさんあり、驚きました。

祝月(いわいづき) 正月(しょうがつ) 早緑月(さみどりづき) 年端月(としはづき)  
太郎月(たろうづき) 王春(おうしゅん) 初春月(はつはるづき)  
初陽(しょうよう) 初空月(はつそらづき) 初見月(はつみづき)...

和風月名は旧暦の季節や行事に合わせたものなので現在の暦でも使用される場合、今の季節感とは1~2か月ほどのずれがあるようですが、1月の月名は、一年の始まりや春の訪れを表す言葉が多く、どれも新しい年を迎える喜びを感じるものです。「太郎」も、もともとは「長男」という意味で使われていた意味合いが転じて物事のはじめをさす場合にもよく使われるようになったそうなので、「太郎月」も一年の最初の月を表しているということになります。(これと呼応して12月のことを「弟月(おとづき、おとうとづき)」とも呼ぶそうです。)皆さんは、いくつ知っていましたか。

月名の話は、12月に「師走(しわす)」の意味について朝会で子どもたちに投げかけたことから続いています。朝会で話した後、何人かの低学年の子どもたちは、文字から想像して「12月は、誰かが『走る』月なんだ」「一体、誰が『走る』んだろう」と自分たちなりに考えていました。12月23日最終日、『師...おぼうさん』と答えを校長室の扉に貼り出すと、廊下を通る子どもたちから「おぼうさんだって」「やった、あった!」「でも、何でおぼうさんが走るんだろう」など、様々な学年の子どもたちの声が校長室の中まで聞こえてきました。子どもたちが関心をもっていたことがわかります。

子どもには「『自ら』学ぶ力」が備わっていると考えます。しかし、その力を十分に発揮するには、単に子どもが好きなことをすればいいわけではありません。子どもたちがよりよく学ぶためには、教師が適切にかかわり、指導していくことが必要です。また、「学び」の過程では、新たなことに触れて関心をもったり、続けるうちに面白くなってきたり、友達と一緒にやってみたら楽しかったりするような体験も大切です。そしてその積み重ねが、新たな「学び」へとつながります。子どもたちが「人・もの・こと」に興味や関心をもつことは「学び」のスタートです。そこから自分でいろいろ調べたり長く考えたりしていくと、分かってくるのが必ずあります。その楽しさを味わってほしいのです。子どもの「学び」に進んでかかわり、具体的な取組を通して、これからも発信し続けていきたいと思います。